

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 10月 27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2271100841
法人名	企業組合 グループホームつどい
事業所名	グループホームつどい
所在地 (電話番号)	沼津市鳥谷5-1 (055-968-1827)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年9月27日

## 【情報提供票より】(平成20年9月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	2人, 非常勤 7人, 常勤換算 4.6人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	67,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000円 )	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1500 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年9月4日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	0名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	71歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖隷沼津病院、羽切医院、寺田医院、石渡歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは国道1号線から近く、田園地帯と住宅地の境に位置している。眼前に富士山を望む、平屋、1ユニットの華奢な建物である。管理者夫婦はホームに泊り込みで介護に従事しており、利用者、家族からの信頼が厚い。1ユニットの特徴を生かし本当の家族のような親密な関係が構築されている。また玄関前の植木やホーム内に飾られた花にも管理者の配慮が現れている。開設から5年が経過し利用者の重度化が進んでいるが、提携医療機関と協力し出来るだけホームでの生活が継続できるよう、最大限の努力を惜しまない姿勢を持っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は前回評価での改善課題に良く取り組み、現在も改善のための取り組みが継続している。特に同業者との交流については「沼津北部グループホーム連絡会」を通じて同業者交流が進んでおり、サービスの質の向上に向けた今後の取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者を中心として全職員から意見を集め実施した。評価の項目は、サービスの質の向上に向けた取り組みとして職員の自覚を促し、目標設定のための良い規範となっており、職員の意識も高い。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的で開催されている。地域包括支援センター、民生委員、自治会長等、地域住民とホームの管理者、職員が集まり、活発な意見交換が実施されている。ホームからは活動の報告や地域への要望が出され、行政や地域住民からは、行事や祭り等のお知らせやホームへの期待等、地域に密着したホームの運営推進会議に相応しい内容となっており、管理者は会議での意見を業務に生かす姿勢を持っている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者夫婦はホームに泊り込み、家族の訪問や電話に24時間対応している。また職員は、家族の意見を直接聞き取る努力をしており家族の評価も高い。また意見が迅速に職員全員に伝達され、業務に生かされるシステムを持っている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは高齢者施設に対し理解のある地域にあり、自治会や消防をはじめ、老人会等地域住民との交流が深い。外出時には気軽に挨拶を交わし、地域の祭りや音楽会等のイベントへの参加も頻繁に行われている。また災害時には近隣住民の援助を受けられるよう、地域との話し合いや連絡網作りを進めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は、開設時からのホームの理念を大切にしている。理念はホーム内にも掲示され、利用者や家族とも共有されているが、地域密着型サービスの理念である「地域住民との交流」が盛り込まれていない。	○	開設から5年を経過し、管理者はパンフレットや運営規定、契約書等の見直しを考えている。この機会に理念の見直しを図り、地域密着型サービスの新しい理念を盛り込むことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員や利用者から良く見える位置に掲示されている。また朝夕の申し送りやカンファレンスにおいて良く共有されており職員の意識も高い。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、高齢者施設に対し理解のある地域にあり、自治会や消防をはじめ、老人会等地域住民との交流が深い。外出時には気軽に挨拶を交わし、地域の祭りや音楽会等のイベントへの参加も頻繁に実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者を中心として全職員から意見を集め実施した。評価の項目は、サービスの質の向上に向けた取り組みとして職員の自覚を促し、目標設定のための良い規範となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に行われている。地域包括支援センター、民生委員、自治会長等、地域住民とホームの管理者、職員が集まり、活発な意見交換が実施されている。管理者は会議での意見を業務に生かす姿勢を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が遠いため、管理者が市役所を訪問することは少ないが、電話等を利用し積極的にコミュニケーションを図っている。行政からは激励や要望、意見が多く寄せられ、ホームと行政が共に歩む姿勢が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	管理者や職員は、家族の訪問時には利用者の現状を積極的に報告し意見を求める姿勢を持っている。また、月に1回程度は手書きの親書を家族に送っているが、報告のシステム作りには至っていない。	○	定期刊行物としての「ホームだより」はホームの歴史や実績としての重要な役割を持っている。利用者や家族の思い出、職員の業務の振り返りやサービス向上にもつながる「ホームだより」の定期発行が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者夫婦はホームに泊り込み、家族の訪問や電話に24時間対応している。また職員は、家族の意見を直接聞き取る努力をしており家族の評価も高い。また意見が迅速に職員全員に伝達され、業務に生かされるシステムを持っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、核となる職員の退職や異動がない。また、管理者夫婦が夜勤を担うため、家族のような親密な関係が構築されている。利用者は馴染みの関係の中で安心して生活しており家族からの信頼も厚い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりの特性を良く把握し、各々に適した研修等を計画的に受けられるよう配慮している。また入職時には1～3ヶ月をかけて働きながらゆっくとトレーニングを進めるシステムを持っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、管理者の個人的レベルで同業者との交流が進んでいたが、最近では「沼津北部グループホーム連絡会」が発足し、その中心的ホームとして活躍している。同業者交流をサービスの質の向上につなげるための努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	紹介や問合せがあれば、まず面接や説明を行い、必ず数回の見学を依頼している。また本人には見学のみではなく、食事やおやつ、リビングでの会話等を体験し、十分に馴染みながらの利用となるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者や職員は高齢者から学ぶ姿勢を持ち、常に家族のように支えあう気持ちを持っている。共に笑い、語り合いながら、お互いに認め、気遣う関係を構築しており、利用者の言葉や笑顔に癒される職員の姿も見られた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者及び職員は利用者や家族の話を良く聞き、思いや暮らし方の希望を把握することに努めている。また入所時やサービス計画作成時のアセスメントも的確に実施され、利用者の視点に立ったサービスが提供されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常にその人らしく毎日を暮らせるよう、本人はもちろん家族や関係者の意見、要望を反映させるため職員全員で介護計画を作成している。介護計画には常に新鮮な情報が盛り込まれ、利用者本位の活動的な内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	開設以来5年が経過し重度化が進んでいる利用者もいる。食事時間や入浴方法など、利用者の状態変化を見ながら、本人、家族、必要な関係者と話し合い、常に実情に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診介助や外出支援は随時実施している。また家族の宿泊、食事の提供にも対応している。重度化やターミナルケアについても取り組む姿勢があり、利用者や家族が安心して暮らせるよう多様な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと各医療機関の協力システムが構築されており、定期的な受診の他、24時間対応できるよう医療体制が出来ている。重度化やターミナルケアが必要な場合にはかかりつけ医をホームの提携医に変更して対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては全職員が経験しており、家族の思いやケアの困難さは全員が理解している。また終末期に対する対応方針を定めており、本人及び家族と意思確認書を交し同意を得ている。		
に					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や職員は、利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねるような言葉掛けをしないよう心掛けている。また個人情報保護法の理解に努め、法令順守の徹底に取り組んでおり、関係書類は的確に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、ゆっくりと時間が経過する様な雰囲気作りを心がけている。利用者のペースを大切に見守りながら、職員全員が様々な工夫をすることで、その人らしい暮らしの確保に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化が進んでいる利用者には食事時間を長く取り、ゆっくりと時間をかけて介助している。調理や片付けなどが出来ない利用者も多いが、食事を通じたコミュニケーションや会話を楽しみながら全員で支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの意向を大事にし、本人の生活習慣や希望日に合わせて、ゆったりとした気分で入浴できる様、職員同志が工夫して支援している。重度化した利用者にはシャワー浴や清拭にて対応し清潔に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者や職員は、利用者本人の習慣や心身の状態に合わせて、家庭菜園、鑑賞用の花の手入れ、手作業等、本人の出来る事で役割を持ち、楽しみながら生活出来るよう、工夫しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺には小川や湧水があり、田園地帯も広がっている。農作業や季節感を感じられるよう、一人ひとりの状態や希望に合わせて職員全員で散歩等外出を支援している。また近隣の祭りや行事にも参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかけない暮らしの大切さを、管理者夫婦及び職員全員が認識しており、職員全員で的確な見守りを実施している。また地域の住民にも理解を求め、声掛けや連絡をしてもらえる関係を築いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練や運営推進会議を通じて、地域住民や消防署の協力体制を得られており、昼夜を通じた災害時の具体的な避難策についても話し合いが行われている。また近隣には湧水があり、災害時の重要な水源となっている。しかし緊急用食料の備蓄が充分ではなかった。	○	災害時にはライフラインが絶たれることも想定し、飲料水や緊急用食料を十分に確保しておく事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者は高齢者の栄養バランスについて良く研究しており家族の評価も高い。また食器や盛り付けに気を遣い、食欲を刺激することで低栄養や脱水に配慮している。毎日の水分摂取量や食事はチェック表に記録され、職員全員の食事への意識を高めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、大きな窓から田園風景を望む明るい空間である。また廊下やトイレ等各所に手すりが設置され、危険なく移動できるよう配慮されている。食堂には利用者全員が集う大きな円形テーブルが置かれ、季節の生け花や絵画、写真等を配置する事で居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居室で安心して毎日を過ごせるよう、本人が使用していた家具や写真等を身近に置くよう配慮している。馴染みの家具や好みの持ち物に囲まれ、その人らしい生活感のある居室となっている。		